

【四月の言葉（令和七年）】

苦悩の多いこの世界

捨てがたいものでもある

くおんごう

るてん

きゅうり きょうり

「久遠劫よりいままで流転せる苦悩の旧里（郷里）は捨てがたく、いまだ生まれざる安養浄土はこひしからず候ふこと、

いっじょう

まことによくよく煩惱の興盛に候ふにこそ」（歎異抄）

※久遠劫Ⅱきわめて遠い過去

「はるか昔から今まで、ずっと生死をくり返してきたこの苦しみに満ちた世界は捨てがたく、まだ一度も訪れたことのない浄土を恋しく思うことができない。これは煩惱が盛んだからであろう」と親鸞は述べています。また「早く往生したいと思えず、少しでも病気になると思ぬのではないかと不安になるのも煩惱のせいである」とも述べています。自分の心の内を素直に語る親鸞の人柄が表れている言葉です。

私たちは誰しも、煩惱を捨てることなどできず、病や死を恐れ、救いを信じることもできずにいます。しかし、大切なのは、苦悩や葛藤をなくすことではなく、そうした自分の弱さを「まかさず、きちんと向き合うこと」です。

（「くり返し読みたい親鸞」ヘリベラル社〈参照〉）